

第19回石井十次顕彰のつどい

2月1日(日)中央公民館ホールにて開催しました。

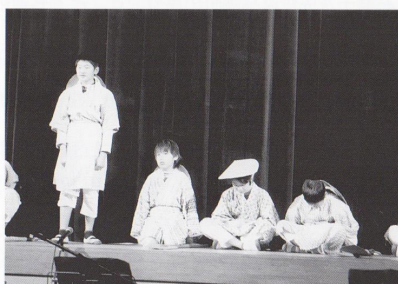
記念講演で、高鍋町出身の建築家久保昌也先生が『石井十次の時代から現代へ』と題して記念講演をしていただきました。



記念講演 久保昌也先生

その後高鍋西小学校5、6年生による資料発表と『岡山の大洪水』の児童劇を行い、おいでいただいた皆さんの期待に応えるすばらしい顕彰のつどいことができました。

次回も町民の皆さん方の、多数出会くださることを期待いたします。



西小学校6年生による児童劇「岡山の大洪水」

多額のご寄付をいただき ありがとうございます。
厚くお礼申し上げます。

寄付者報告第18号 ● 20. 12. 10～21. 7. 20

篤志寄付

高鍋町 S Sグループ代表
 函師 孝一郎
 高鍋町 舞鶴一座 秋月鼓童
 石田 喜克
 高鍋町 立正佼成会 教会長
 岩崎 隆一
 川南町 渡邊 博
 高鍋町 福本 幸良
 高鍋町 坂田病院
 坂田 師通

忌明寄付

木城町 児嶋 草次郎
 高鍋町 川野 妙子
 高鍋町 山田 勝史
 高鍋町 津曲 久子

あとがき

世情が大変乱れている昨今です。命の尊さということが軽んぜられ毎日のように殺人の報道を眼にして痛ましい限りです。今こそ、石井十次が唱えた慈愛の心の大切さを多くの人にもっともっとわかってもらい慈愛の精神を広めていかなければならない時がきているのではないかと痛切に感じ入る日々です。

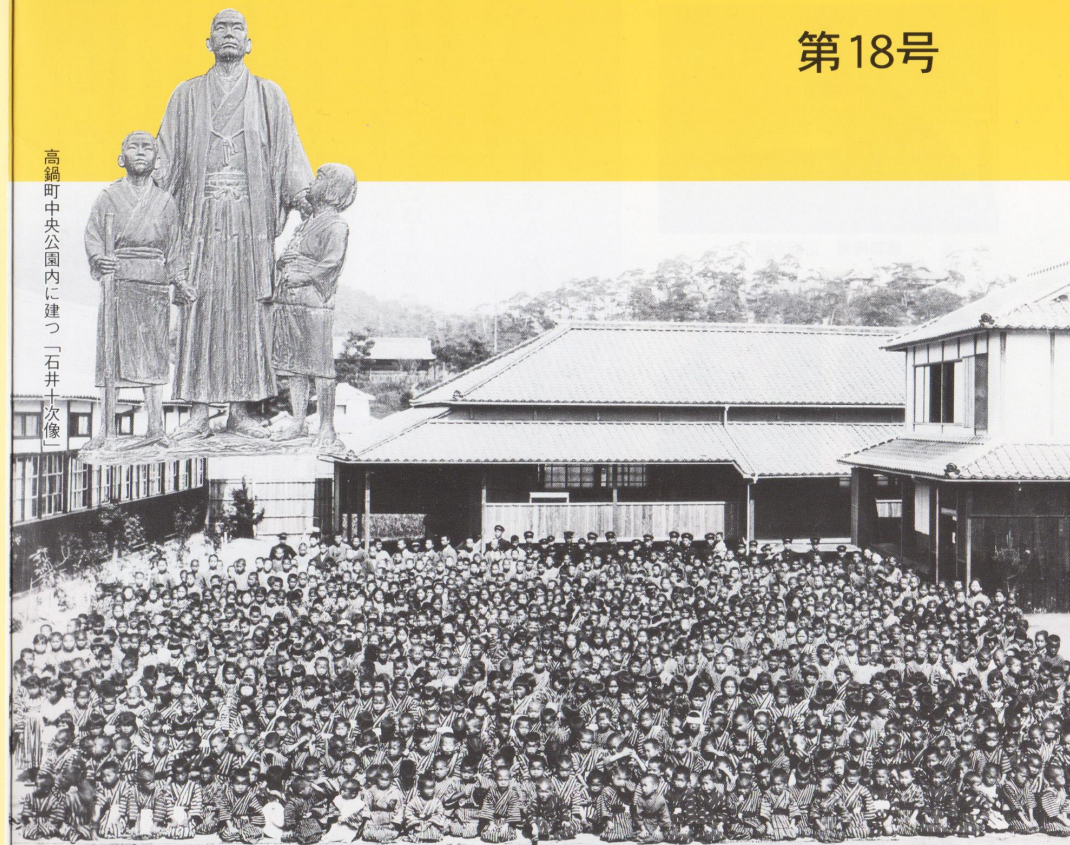
皆様のご理解とご協力をお願いいたします。
 「顕彰会便り」18号をお届けいたします。今回より7月に発行することにいたしました。

財団法人 石井十次顕彰会

〒884-0006
 宮崎県児湯郡高鍋町大字上江8113番地
 TEL 0983-23-4312

石井十次顕彰会だより

第18号



1200人余りの孤児で一杯の岡山孤児院(明治39年・西暦1906年)

財団法人 石井十次顕彰会



藤聖母園 三浦 裕 理事長



藤聖母園 正面玄関



シンボル 藤棚の花



藤聖母園 井上高子 園長

第18回石井十次賞

平成二十一年四月十三日

財団法人 石井十次顕彰会
理事長 税田 格十

昭和四十年には 園舎を全面改築し 小舎制のホーム体制を敷き家庭的で明るい暖かな雰囲気安定した生活が送れるよう配慮され社会へ出て自立できることを目指し充実した活動実績をあげてきました
六十有余年を経て千余名を超す児童を育て社会に送り出しております また保育所・幼稚園 老人ホーム デイサービスなど地域社会との連携を深め地域からの信頼も厚く 青森県の社会福祉の先駆者として認められてきました
このことはまさに石井十次の理念に沿った偉業であり心から敬意を表し ここに第十八回石井十次賞を贈り功績を讃えます

井十次賞

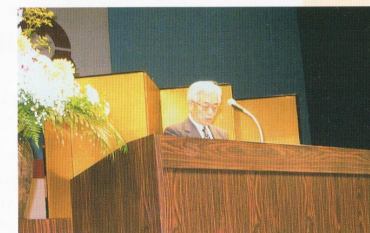
石井十次賞

社会福祉法人
児童養護施設 藤聖母園 様

孤児救済を自らの天職と定め 五十年の生涯を捧げた児童社会福祉事業の先駆者 石井十次の人類愛と社会奉仕の崇高な精神を永遠に継承し 愛の心 思いやりの心を全国に広めるために石井十次賞を制定しました
貴園は戦後戦災による孤児の救済事業としてキリスト教の福音の精神と隣人愛の信条のもとに昭和二十一年財団法人青森慈恵会を設立、二十三年児童養護施設としての認可を受け入所児童のため キリスト教の精神に基づく人間愛豊かな修道女を迎え献身的な活動により法人として発展してきました



税田理事長より賞状を三浦 裕理事長へ



謝辞を述べられる三浦 裕理事長



小学校5年生へ石井十次小伝の贈呈



卒業・卒園感謝の集い



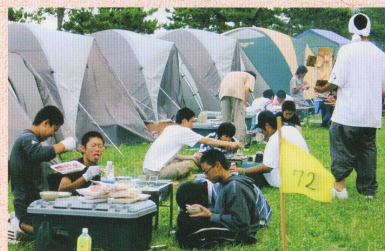
高校生の意見発表



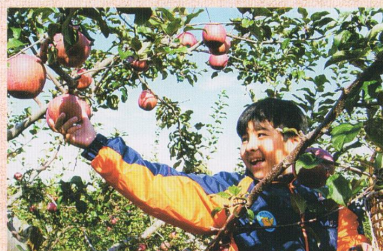
昭和23年養護施設認可時の園児たち



夏泊海岸での海水浴



中・高校生のキャンプ



農園でのリンゴの収穫



海上保安庁の皆さんとの「餅つき」



なでしこコーラスの石井十次の歌

平成四年の第一回石井十次賞（北海道家庭学校）以来、第十八回（社会福祉法人 児童養護施設 藤聖母園）となり、平成二十一年四月十三日に、その贈呈式を行いました。
併せて、当日会場で発表された小中高校生の文章をお届けします。

「第18回石井十次賞」受賞者紹介

「第18回石井十次賞」候補者募集を、平成20年12月末を期限として全国都道府県、政令指定都市の社会福祉協議会及び個人推薦人にお願ひしました。推薦していただいたその候補者のうちから、平成21年2月19日、東京都において選考委員会を開催し、審査の結果下記の施設に決定いたしました。



社会福祉法人 児童養護施設 藤聖母園

理事長 三 浦 裕

住所 青森県青森市奥野三丁目7番1号
TEL (017)734-0489
FAX (017)734-2344

【施設の紹介】

1945年（昭和20年）終戦間もないころ、奥村 半二氏が戦後の混乱期にちまたにさまよう戦災孤児の収容救済計画によって始められ、当初は9名の孤児の救済から開始された。

翌21年（1946年）に財団法人青森慈恵会の認可がおりたが、2ヵ月後には県内務部長より施設の閉鎖命令が出され、ようやく年末に何とか新築園舎が完成し再開される。

23年（1948年）には県内養護施設の第1号として認可され収容児も30名に増えて、その間、駐留米軍から物資等の支援も受けるようになる。27年（1952年）には社会福祉法人藤聖母園と改められ園児数も70名を越して30年（1955年）に定員100名に増員することができた。このころから、園児も高校・大学へ進学する者も少しずつ出るようになってきた。

翌31年には、創立10周年と新館が竣工する。カトリック教団からの支援も大きくこのようにして年次的に施設の拡充計画も進められて増築され、小舎制のホーム体制を敷き家庭的で明るい安定した生活が送られるよう配慮されている。さらにリング農園などの耕作も始められ自給するまでになる。園児たちも、将来社会に出ての自立を目指した進路指導も行き届いた対策がなされており高校・大学などの進学などもでてきている。

特に地域社会とのつながりを大切にされる運営をされているようで学童保育や施設の地域開放などいろいろな面での提供をして地域の方々から大変喜ばれている。

創立60有余年を経過し現在、施設で生活している園児は91名でこの施設から巣立った子供の総数もすでに千百余名を越している。

年間の園内活動も、将来への自立を目指し体験学習をとおした養育に理事長、園長を中心に職員が一人丸となって取り組んでおられ、ここで育っている子供たちは、恵まれた施設内で幸せにすくすくと育っているように思える。



十次先生に学んだこと

高鍋西小学校 5年 河野 菜々

私達は、1年生の時から、石井十次先生について学習してきました。その中で、私が、十次先生についていつも考えていたことがあります。「十次先生は、どうして三千人もの孤児たちを育てたのだろう。何がきっかけだったのだろう。」私は、十次先生のことを勉強するたびに、いつもこのことを考えていました。

4年生になって、道徳の時間に十次先生のことを勉強した時に、そのきっかけが分かりました。

十次先生が、医者になるための勉強をしている時のことでした。町を歩いていると、男の子と女の子がきよろきよろと辺りを見ていましたが、十次先生が見ているのに気づくと、かくれてしまいました。十次先生は、この二人の子におにぎりをあげました。私は、十次先生は、とても優しい人だなと思いました。そして、十次先生が、孤児を育てようと思ったのは、この子たちがきっかけだったんだと思いました。

また、十次先生が、孤児救済に一生をささげるかどうか悩んでいる時、お父さんから手紙がとどきました。「孤児をあずかり、医者になるための勉強を中と半ばにしているようだけれど、一時の思いつきではなく、十分考えてほしい。男の一生の仕事だからこそ、特にしんちょうによく考えてほしい。孤児の世話、医者になるための勉強が終わってからも始められると思うから、おろかな考えはすててほしい。」その手紙には、こんなことが書かれていたのです。

私なら、親の反対に負けて、医者を選ぶとします。けれども、十次先生は、何日も何日も考えて、孤児救済の道を選んだのです。そして、それまでやっていた医者を選ぶのを捨て、大切な医書を焼いたのです。「父には申し訳ないけれど、孤児の方が大切だ。」と、悩んだ十次先生の気持ちがよくわかります。このことで、私は、十次先生は、とても優しくて勇気のある人だと思いました。そして、何よりも人の命が大切だということを十次先生に教えられた気がしました。

これからは、私も、十次先生のようにやさしい心を持ち、家族や友達、私の周りにいる人たちを大切にしていきたいです。そして、自分のことばかりではなく、まわりの人のことも考えながら行動できるようにになりたいと思います。



過去の自分と今の自分

高鍋西中学校 2年 宮崎 はな

その時、私は石井十次先生に出会って自分を変えられました。

以前、学級でみんなが騒がしいとき「静かにして」と私は注意したけど耳を傾けてはくれませんでした。私は「注意するのに注意を聞いてくれないみんなが悪いんだ」と人のせいにしていました。

ある日道徳の時間に石井十次先生について学習しました。授業が始まって石井十次先生は地域の人たちと100ヘクタールという土地の開墾に励んだことを知りました。当然自分のためではありません。私はその瞬間「どうしてこんなことができるんだろう」と疑問に思いました。いろいろなことが頭の中でぐるぐるまわっていました。授業が終わったあと男子が騒いでいたので「休み時間だからって騒がないでよ」と注意するけど、やっぱり聞いてくれませんでした。」でもその時「これが。私の注意を聞いてくれなかったのは私自身が悪かったのか。」と初めて気づきました。

石井十次先生は最初から、みんなで開墾をしたわけではありませんでした。まず一人で開墾を始めました。一人で開墾をしていると、他人からは「無理無理」とあきれられていました。しかし、そんな他人になりふりかまわず少しずつ開墾に励んだのです。その「姿」に心を打たれた人たちが、一人一人と増えていき、みんなで開墾に励むようになったのです。

私に足りなかったものは、石井十次先生のようにまず自分が一生懸命に励んでいくという「姿」だと思いました。クラスみんなは、私が一生懸命一人でみんなのために何かをがんばっていないので、私の注意を聞かなかったんだと思いました。では、私は何を一生懸命すればよいかを考えました。そして浮かんできたのは人のために役立つことを小さなことでも実行することです。「トイレのスリッパを並べる。」当然自分のだけではありません。「ゴミが落ちていた必ず拾う」など、当たり前のことを、しっかりやる自分を作っていこうと考えました。

「動けば変わる」昨年度の生徒会のスローガンでもあったこの言葉ですが、きっと自分から行動を起こせばきっと私の注意も聞いてくれるだろうし学級も学年も変わっていけると考えました。

そして十次先生は開墾した土地を反対運動をした人にも分けてあげるといった広い心の持ち主でした。私はびっくりしました。なぜ、自分に反対する人にまで優しくできるのでしょうか。

じっくり自分を振り返ってみました。今までの私は確かに注意を素直に聞いてくれない人のことばかりを責めて、自分自身の姿を見つめなおすことが足りなかったことに気がつきました。西中学校にはリーダーシップメンバーシップという言葉があります。リーダーシップには、「動けば変わる」といった気持ちで積極的に自分から行動すること。そして、広い心で人と接すること、世のため人のためになりふりかまわずやり通す強い心が必要なのだとわかりました。これからは、自分が本当に一生懸命何かを成し遂げようとしている姿で、みんなを引っ張っていきたいです。



果敢実行の人、石井十次

高鍋高等学校 3年 幸田 あや

石井十次。宮崎県の偉人の一人に数えられるこの人は、「孤児の父」として日本国内で初めて孤児教育事業に取り組んだ人です。私が、この石井十次という人を詳しく知ったのは高校に入学してからでした。以前から名前だけは知っていたのですが、どんなことをした人なのかよく知りませんでした。しかし、石井十次について理解していけばいくほど、「孤児の父」と称される理由、その業績、そして人物像の偉大さに驚嘆させられました。

心の残ったエピソードの一つに、十次が子供のとき、祭りの日に縄の帯を締めていた友人がいじめられていたのを見て、自分の母の手作りの帯とその友人の縄の帯とを交換したという話があります。もし、自分が十次と同じ立場だったらどうしたらだろうか考えると、帯を交換するというまでの勇氣はないだろうと思いました。十次は自分のことよりも、人のことを考えることができ、躊躇なく自分を犠牲にする勇氣と行動力がある人だと感動しました。そして、孤児のために自分の人生を捧げた十次らしいエピソードだと納得させられました。しかし、十次は孤児教育事業に身を投じることを決断するまでに非常に悩んだといいます。医者を目指していた十次は、「医者になるものは他にもいるが、孤児を救おうとするものは少ない。自分野一生は孤児のために捧げよう。」と決断したとき、医学書やノートをすべて寺の境内で燃やしたそうです。このことを知ったとき、私は十次の意志と決断力の強さに衝撃を受けました。きっと、その意志と決断力の強さ、そして、勇氣と行動力が、世界に類を見ない孤児教育事業の成功を導いたのだと思います。

「鮎は瀬に住む。鳥は樹にやどる、人はなさけの下に住む」これは十次がよく口ずさんでいた歌です。この歌から十次は人を限りなく愛し、思いやっていたのだというのが伝わってきます。石井十次がその生涯を終えたとき、孤児だけでなく多くの人が彼の死を悼み涙を流しました。そして、今なおその偉大さと業績が語り伝えられています。十次には社会的立場の弱い人々を思いやり、その人々たちのために行動するという勇氣と強さがありました。だからこそ、多くの人々を救うことができたのでしょう。

現存の日本の状況を見ると、今の社会には、社会的に立場の弱い人々を思いやるということが足りないと思います。世界的な不況のために解雇されるなどホームレスの人が増え、少子化や高齢化にもなって、福祉の面でさまざまな問題が生じています。そして、富める者と貧しい者との格差が広がっています。しかし、それらの問題に対する具体的な取り組みが適切になされていません。今こそ、十次の精神が必要なのではないのでしょうか。弱い立場の人を思いやり、そしてそれを行動に移す強い意志と勇氣があれば、社会を変えていくことができると思います。

誰でも思いやりの心は持っていて、問題に直面したときこれではいけないと考えることはできると思います。現に私もそうです。これではいけないと思うことは多いのですが、それを実際に行動に移すととなると勇氣がなくて実行できません。まずは、私自身から、その勇氣と行動力を見習いたいです。石井十次。勇氣と行動力、そして自己犠牲を厭わない本当の優しさを持った誇るべき郷土の偉人の精神を、もっと深く理解し、伝えていきたいです。



The Great Person ~Ishii Juji

Takanabe-Higashi J.H.S.
2rd grade Suga Mizuki

When he was six or seven years of age, Juji was dressed by his mother in a new kimono with a good belt for the harvest festival. "Now you look handsome! Why don't you go outside and play?" said his mother. Juji directed his steps toward the shrine, his heart beating with joy. A small boy was whimpering near the gate of the shrine "What's wrong, Matsukichi?" Juji asked. But he guessed from the way Matsukichi was dressed humbly in a torn kimono with a rope for a belt that he was being snubbed by his friends. "Stop crying, Matsukichi, I'll give you my belt," said Juji, taking off his belt for Matsukichi. Then he led Matsukichi over to his friends to join them and play.

In the evening, Juji went home only to be asked by his mother what had become of his belt. Juji told her the truth honestly, though he feared that he might be scolded for what he had done. But his mother gave him a gentle smile and said. "Is that right? Good for you. Matsukichi must have been very happy." His mother's response inspired juji to being his volunteer work.

This is the well known story about Ishii Juji. As you know he is one of the greatest people from Takanabe. I have been often taught Mr.Ishii's teaching since my childhood. Now I respect him and I'm very proud of him.

There are words Mr.Ishii left : '信-To believe in each other, 愛-To love each other, 和-To live together in harmony.' I always keep it in mind and I try to do my best to be a useful person for society.

郷土の偉人 ~石井十次先生

高鍋東中学校 2年 菅 瑞希

十次が6歳か7歳の時、村の祭の時にと、母親からよそ行きの帯を作ってもらった。「よく似合っ
ておいでだよ。それで遊んでおいでなさい。」母親に言われて、十次はわくわくしながら神社へ向かっ
た。すると、神社の入り口のところで小さな男の子が泣いていた。「松吉、どうしたんだい。」十次は、
松吉の縄の帯をして破けた着物を着た貧しいようすから、他の子たちからのけ者にされているのを悟っ
た。「泣くのをおやめ、松吉。私の帯をあげるから。」十次は自分の帯をはずして松吉に与えた。こう
して、十次は松吉をみんなの仲間に入れてあげたのである。その晩、十次は帯のことを母親に言いあ
ぐねていた。そして、怒られるかもしれない思いながらも、正直に話をした。しかし、母親は優し
い笑みを浮かべて言った。「そうだったのですか。いいことをしましたね。松吉さんはさぞ喜んだこ
とでしょう。」この時の母親のことばが、後に十次が行う福祉事業へと導くことになった。

これは、石井十次先生がよく知られた話です。みなさんもご存じのように石井先生は高鍋の偉人の
ひとりです。私は小さいときから石井十次先生の教えを教わってきました。そして、今、石井先生の
ことを尊敬し、誇りに思っています。

石井先生が残した言葉があります。「信~お互いに信じること、愛~お互いに愛しあうこと、和~
仲良く支え合って生きること」私はこの言葉をいつも心にとどめています。そして社会に貢献できる
人になっていきたいと思っています。



FOR THE PEOPLE AND FOR SOCIETY

Takanabe-Nishi J.H.S.
2rd grade Otuka Mayuko

Jiji Ishii is the pride of Takanabe town. I really respect him. I studied about him in elementary school. I read the story of "Nawa no obi" and I knew that he helped three hundred orphans. I performed in the play of Juji with my classmates. Through these studies I was moved by his deep consideration.

I've recently studied more about him at my school in January. Juji was a man with deep consideration. But moreover Juji thought that he had to work for other people and society first, not for himself. I've come to think that he was a really great person with deep consideration, bravery, decisiveness, a forward-looking view, broad-mindedness and strong leadership ability.

Juji did great cultivation work in Takanabe to make rice fields. I studied about this at school. Juji had excellent executive ability. He also had an incredible will to help people and society. He did his very best to cultivate barren fields to make rice fields for the purpose of helping those who were living poorly to become richer and happier.

I was very surprised to know that he was only seventeen years old when he worked with a hope for the people to be happy. I also had a big surprise to know that he gave the rice fields to the person who did not agree to his cultivation plan. He was a very broad-minded person. Not only I but all the people of Takanabe town should be proud of him. I think his motto was "for the people and for society".

I was moved to want to study more and more about him. And I think I should also do something for society. For example I think I can do something small like being eco conscious and cleaning the neighbourhood by picking up garbage, I can do these small things following Juji's thinking, which will be for the society.

My dream is to be an interpreter. I will study hard to be a person who has a global view of thinking. And I want to live with deep consideration and the ability to get things done, following Juji's mind, "for the people and for society".

石井十次先生の生き方に学んだこと ～「人のため社会のため」～

高鍋西中学校 2年 大塚 真由子

石井十次先生は高鍋町の誇りです。とても尊敬しています。小学生の頃に、「縄の帯の話」そして3千人の孤児を救ったことを劇などを通じて学習しました。思いやりの深さに感動したものでした。

3学期に学校で十次について学習して、彼の偉大さはそれだけではないことを知りました。十次先生はいつも人や世のためを一番に考え行動します。十次先生は深い思いやり、先を見通した考え、勇気、決断、実行力を兼ね備えた本当に素晴らしい人です。

今回の学習で、十次先生は高鍋の水田を開墾したことを学びました。十次先生はとても強い意志を持って事を成し遂げてます。陸稲で細々と生活していた高鍋の人たちの生活を豊かにするために汗水流し水田を拓きました。

私は弱冠17歳という若さで地域の人々の暮らしが良くなるように考えて実行したことにびっくりしました。そして、開墾計画に反対運動をした人にも開墾地を分け与えたことにも十次先生の心の広さを感じました。高鍋に住む人みんながもっと十次先生を誇りに思うべきです。私は十次先生は「人のため、社会のため」を信条として実行してきた人だと思います。

私は、十次先生のことをもっと深く知りたいと考えました。そして、社会のためになることで、私にも実行できることをやりたいと思いました。たとえば、地球のために省エネや、地域のためのゴミ拾いなど小さいことから自分のことだけでなく人のため世のためといった考え方を学習して取り組んでいきます。

私の夢は通訳になることです。しっかり勉強して、国際的な視野に立つてものごとを考えられる人になりたいです。そして思いやりを持って、物事を最後までやり通す行動力を持って前向きに行動していきます。十次先生の信条、「人のため、社会のため」を見習って。